科目名	看護学概論	単位	1	時間	30	講師名	教育主事
開講時期	1年生　1学期						
科目の目的と概要	看護の歴史、看護理論の学習を通して、自己の看護観形成の基盤を築く。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1, DP2, DP4, DP5, DP6　の達成に寄与						
到達目標	1. 人間科学としての看護学の学問的位置づけについて理解できる。 2. 看護実践における重要な概念について理解できる。 3. 看護の目的、役割と機能について理解できる。 4. 看護における倫理と法について理解できる。 5. 看護専門職としての役割と責任・自立について理解できる。						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 学問としての看護　患者中心の看護とは 看護とは何かを考える 「看護」に対する私のイメージ　グループワーク	2	講義
2	ナイチンゲールまでの看護 近代看護への道　看護の職業的発展 看護職能団体による看護の定義　ICN、ANA、JNA	2	講義
3	ケアリングの役割と機能 看護の質の保証	2	講義
4	看護実践における重要な概念 人間の理解:人間とは何か、全体的存在としての人間	2	講義
5	看護実践における重要な概念 健康の理解:健康とは何か、健康モデル 人々の生活と健康に関する統計:人口、少子高齢化、健康寿命	2	講義
6	看護理論について:看護理論の定義、構成、発展過程 看護理論を学ぶ意義、看護理論の活用	2	講義
7	看護理論家に関するグループワーク:ヘンダーソン、オレム、ロイ、トラベルビー、ワトソン	2	講義
8	看護理論家について　発表	2	講義
9	看護の役割と機能、看護が機能する場、保健・医療・福祉の連携	2	講義
10	看護実践の方法:看護技術、看護過程、対人コミュニケーション	2	講義
11	看護における倫理と法:看護と法、職業倫理　看護倫理　看護者の倫理綱領、インフォームドコンセント　意思決定支援	2	講義
12	看護実践を支えるもの:看護制度、看護行政、看護管理、看護教育、看護研究	2	講義
13	専門職としての看護:専門職とは、専門職としての役割と自律・責任、看護基礎教育の歴史的変遷	2	講義
14	医療安全:医療安全への取り組み、事故発生のメカニズム、事故対策	2	講義
15	グローバル社会と看護:異文化の理解、災害における看護	1	講義
16	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験(100点)
テキスト	新体系看護学全書　基礎看護Ⅰ　看護学概論(メヂカルフレンド社) 看護学テキスト　看護理論(南江堂) 看護者の基本的責務　2017年版(日本看護協会出版会) 看護覚え書き　本当の看護とそうでない看護(日本看護協会出版会)
関連科目	基礎看護学、地域・在宅看護論Ⅰ、成人看護学概論、老年看護学概論、小児看護学概論、母性看護学、精神看護学、看護総合マネージメント、医療安全と看護倫理

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	対象理解演習	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生　2学期						
科目の目的と概要	対象理解および対人関係形成の基盤づくりのために必要な対人関係理論とコミュニケーション技法を学ぶ。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1, DP2, DP5　の達成に寄与						
到達目標	1. 対象理解することの意義と目的が理解できる。 2. 看護におけるケアリングとコミュニケーションの基本を理解できる。 3. 演習を通して「自己および他者を理解する」ことを考えることができる。 4. 場面を通して「対象を理解する」ことを考えることができる。						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明（内容・方法・時期・他科目との関連・評価） 1. 対象理解することの意義・目的、コミュニケーションの構成要素と種類・基本的態度、関係構築のためのコミュニケーションの基本	2	講義
2	患者−医療者関係、看護におけるコミュニケーションの技術①	2	演習
3	模擬患者とのコミュニケーションの実際（1回目）	2	講義
4	2. ケアリングとは ケアリングの理論　メイヤロフ、レイニンガー、ワトソン、ベナー （グループワーク）	2	演習
5	ケアリングとは（グループワーク・発表）	2	演習
6	3. 患者・看護師間の相互作用の評価 自己を理解するとは 看護におけるリフレクションの意義と方法	2	演習
7	プロセスレコードの目的と記載方法	2	演習
8	プロセスレコードを活用したリフレクション（グループワーク）	2	演習
9	4. 看護におけるコミュニケーション技術② カウンセリング技法、コーチング、アサーティブコミュニケーション、Iメッセージ	2	演習
10	5. 模擬患者との関わりを通して「自己および対象を理解する」ことを考える 模擬患者とのコミュニケーションの実際（2回目）	3	演習
11	模擬患者とのコミュニケーションをリフレクション （グループワーク）	2	演習
12	6. 患者との関わりを通して「自己および対象を理解する」ことを考える 実習場面を通して患者とのコミュニケーションをリフレクション （グループワーク）＊基礎看護学実習Ⅰ②終了後＊	2	演習
13	実習場面を通して「対象理解すること」「ケアリング的関係性とは」を考える （グループワーク）＊基礎看護学実習Ⅰ②終了後＊	2	演習
14	実習場面を通して「対象理解すること」「ケアリング的関係性とは」を考える （グループワーク）　＊基礎看護学実習Ⅰ②終了後＊	2	演習
15	看護におけるケアリングとコミュニケーション　＊実習まとめ会終了後＊	1	講義

評価方法	授業中成果物（80点） レポート「看護におけるケアリングとコミュニケーション」（20点）
テキスト	ケアリングの理論と実践（医学書院） 看護理論：看護理論21の理解と実践への応用（南江堂） 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ（医学書院）
関連科目	人間関係論、看護学概論、リフレクション

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	生活アセスメント論	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生　1学期						
科目名の概要	人間の生活機能パターンをアセスメントすることの意義を学ぶ						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP2, DP3 , DP5, DP6　の達成に寄与						
到達目標	1. 対象の生活を支える看護技術の意義を理解する 2. 対象の生活機能パターン(11パターン)の意義とアセスメント内容を理解する 3. 事例対象の機能パターン(11パターン)をアセスメントできる						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 基礎看護技術の考え方 1)看護技術とは　2)看護技術の特徴　3)看護技術の範囲 4)看護技術を適切に実践するための要素　5)看護技術の発展と修得のために	2	講義
2	2. 問題解決型思考 3. 機能的健康パターンの意味と種類 4. 機能的健康パターン別の援助方法とその根拠 1)活動－運動:①人間にとっての活動・運動の意義　②日常生活動作(ADL)とは ③活動・運動の生理的メカニズム	2	講義
3	1)活動－運動:　④活動・運動を阻害する要因 ⑤各看護技術の概要　⑥アセスメントの実際(事例)	2	講義 演習
4	2)栄養－代謝:①人間にとっての食事の意義　②食事の一連の過程 ③食事に影響を及ぼす因子　④栄養摂取の方法　⑤各看護技術の概要	2	講義
5	2)栄養－代謝:⑥アセスメントの実際(事例)	2	講義 演習
6	3)排泄:①排泄の定義　②人間にとっての排泄の意義　③排泄のメカニズム ④排泄行動　⑤排泄に影響を及ぼす因子	2	講義
7	3)排泄:⑥排泄機能障害　⑦排泄の援助を受ける対象の心理 ⑧各看護技術の概要　⑨アセスメントの実際(事例)	2	講義 演習
8	4)睡眠－休息:①人間にとっての睡眠・休息の意義　②休息・睡眠のメカニズム ③睡眠の分類と役割　④睡眠障害の要因　⑤睡眠障害の種類 ⑥睡眠不足が心身に与える影響　⑦睡眠・休息の援助	2	講義
9	4)睡眠－休息:⑧アセスメントの実際(事例)	2	講義 演習
10	5)健康知覚－健康管理:①健康知覚・健康管理とは②看護技術の概要 ③アセスメントするために必要な理論④アセスメントの実際	2	講義 演習
11	6)認知－知覚:①認知・知覚とは　②看護技術の概要　③アセスメントの実際(事例)	2	講義 演習
12	7)自己知覚－自己概念:①自己知覚・自己概念とは　②看護技術の概要 8)役割－関係:①役割・関係とは　②看護技術の概要 9)セクシュアリティー生殖:①セクシュアリティ・生殖とは②看護技術の概要	2	講義
13	7)～9)　アセスメントの実際(事例)	2	講義 演習
14	10)コーピング－ストレス耐性:①ストレスとは　②コーピングとは ③援助の実際 ④アセスメントの実際(事例) 11)価値－信念:①価値－信念とは　②アセスメント　③援助方法 ④アセスメントの実際(事例)	2	演習
15	生活アセスメント論と看護過程演習のつながり	1	講義
16	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験(100点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ　(医学書院) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針(照林社)
関連科目	人体の構造演習　、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、看護共通基本技術、日常生活援助基礎技術 生命維持援助基礎技術、看護過程演習、臨床看護総論

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	看護共通基本技術	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生　1学期　2学期						
科目名の概要	看護を実践するための基盤となる技術を習得する						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3の達成に寄与						
到達目標	1. 環境調整とベッドメーキングに関する基礎知識と技術が習得できる 2. 感染防止に関する基礎知識と感染防止技術が習得できる 3. 創傷管理と無菌操作に関する基礎知識と技術が習得できる 4. 安楽に関する基礎知識と技術が理解できる 5. 医療安全の概念と安全管理の実際を理解する 6. リスクセンストレーニングを実施し自己の傾向を知る 7. 看護記録の意義と種類が理解できる						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 環境を整える技術 1)環境調整 ①環境調整の意義　②療養環境のアセスメント　③療養環境の調整と整備 2)ベッドメーキングの技術 ①ベッドメーキングの意義	2	講義
2	②ベッドメーキングの方法(下シーツ、包布、枕カバー) ③臥床患者のリネン交換	2	演習
3	3)日常生活環境の考察 ①学校の環境を調査　②清潔・不潔を考慮した環境調整	2	演習
4	4)患者における最適な療養環境 ①ベッド周囲の環境調整　②患者における最適な療養環境の考察	2	演習
5	2. 安全・安楽を守る技術 1)感染防止 ①感染の成立と予防　②スタンダードプリコーションと感染経路別予防策 ③衛生学的手洗い　④個人防護用具装着　⑤感染拡大防止の対応	2	講義
6	①衛生学的手洗い(手洗いチェッカー)　②個人防護用具装着(長袖含む)	2	演習
7	2)創傷管理 ①創傷治癒過程　②創部のアセスメント ③創傷処置の方法(洗浄・保護)　④テープの固定方法	2	講義
8	3)無菌操作の実際 ①消毒　②滅菌物の取り扱い　③滅菌手袋・ガウン装着　④無菌操作 ⑤感染性廃棄物の取り扱い	2	講義
9	①滅菌ガウン装着　②滅菌手袋装着 ③無菌操作(滅菌物品の確認方法)	2	演習
10	①無菌操作の一連の流れ(創部の消毒)　②感染性廃棄物の取り扱い	3	演習
11	4)包帯法 ①包帯法の目的・種類・方法　②包帯法の技術	2	講義 演習
12	5)安楽を促す技術 ①安楽の概念　②安楽な姿勢・体位の保持　③罨法	2	講義
13	6)事故防止 ①医療安全の概念と安全管理　②起こりやすい状況と対策(転倒・転落) ③リスクセンストレーニング	2	講義
14	3. 記録と報告 1)電子カルテについて　2)報告の方法	2	講義
15	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験(100点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院) 医療安全ワークブック(医学書院)
関連科目	人体の構造演習、人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、病態生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、生活アセスメント論 看護学概論、病態アセスメント演習Ⅰ、Ⅱ

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	生命維持援助基礎技術	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生　1学期　2学期						
科目名の概要	対象の生命維持に関わる技術を習得する						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3　の達成に寄与						
到達目標	〈栄養・排泄〉 1. 対象にとっての食事の意義が理解できる 2. 対象の安全・安楽を考慮した食事の援助ができる 3. 対象にとっての排泄の意義が理解できる 4. 対象の安全・安楽を考慮した排尿の援助技術が習得できる 5・対象の安全・安楽を考慮した排便の援助技術が習得できる 〈呼吸・循環〉 1. 生命維持に必要な呼吸を整える技術の基礎知識が理解できる 2. 対象の安全・安楽を考慮した酸素吸入技術が習得できる 3. 対象の安全・安楽を考慮した排痰ケア技術が習得できる 4. 対象の状況応じて呼吸を整える援助を実施し、自分が行った看護を振り返ることができる						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 栄養を支える技術 1)食事の3側面について 2)栄養を支える援助(経口摂取・経管栄養)	2	講義
2	3)食事介助(経口摂取が出来る対象への援助)	2	演習
3	2. 排泄を支える技術 1)自然な排泄を促す援助に必要な基礎知識 2)便器・尿器の選択、排泄方法 (安全・安楽・自立・個別性を考慮)	2	講義
4	3)尿器・便器を使用した排泄援助	2	演習
5	4)排便を促す援助に必要な基礎知識 5)安全・安楽な浣腸及び摘便の援助方法について	2	講義
6	6)浣腸・摘便の援助技術 (摘便はデモンストレーションのみ)	2	演習
7	7)排尿を促す援助に必要な基礎知識 8)安全・安楽な一時的導尿、持続的導尿の方法	2	講義
8	9)膀胱留置カテーテル固定・管理に関する援助技術 膀胱留置カテーテル実施に関する援助技術	4	演習
10	3. 呼吸・循環を整える技術 1)酸素吸入療法に必要な基礎知識	2	講義
11	2)酸素吸入の実際	2	演習
12	3)排痰ケアの基礎知識 (体位ドレナージ・咳嗽介助・薬剤吸入)	2	講義
13	3)排痰ケアの基礎知識 (口腔・鼻腔内吸引)	2	講義
14	4)排痰ケアの援助の実際 (体位ドレナージ、口腔・鼻腔内吸引、薬剤吸入)	3	演習
14	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験:(100点)＊各演習課題点含む
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)
関連科目	人体の構造演習、人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、病態生理学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、生活アセスメント論 看護学概論、看護共通基本技術、病態アセスメント演習Ⅰ、Ⅱ

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	日常生活援助基礎技術	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生　1学期						
科目の目的と概要	対象の日常生活に関わる技術を習得する						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3　の達成に寄与						
到達目標	＜活動＞ 1. ボディメカニクスの技術を習得できる。 2. 対象の安全、安楽を考えた体位変換ができる。 3. 安全、安楽にベッドから車いすへの移乗ができる。 4. 安全安楽に車椅子、ストレッチャーの移送ができる。 ＜清潔＞ 1. 対象の清潔援助の意義が理解できる。 2. 清潔に必要な基本的技術が習得できる。 3. 対象の安全、安楽を考慮した全身清拭の技術が習得できる。 4. 対象の安全、安楽を考慮した洗髪、部分清拭の技術が習得できる。						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明（内容・方法・時期・他科目との関連・評価） 1. 活動と休息を助ける技術 1）活動・休息の意義 2）基本的活動の基礎知識（よい姿勢・ボディメカニクス） 3）体位について 4）体位変換・移乗・移送の基礎知識と援助の実際	2	講義
2	5）体位変換・移乗の援助の実際 水平移動、側臥位、長坐位、端坐位	2	演習
3	6）ベッド上臥床状態から車椅子移乗までの実際	2	演習
4	7）移乗・移送の援助の実際 車椅子移送（平地・段差・エレベーター） ストレッチャー移乗・移送	2	演習
5	技術試験	1	試験
6	2. 清潔を助ける技術 1）清潔援助の意義と看護師の役割 2）衣服を用いることの意義　　3）整容の意義	2	講義
7	4）清潔援助の種類 5）洗浄のメカニズム 6）全身清拭・寝衣交換の援助の実際	2	講義
8	7）清潔に必要な基本的技術の実際 湯の準備・温度調整、ウォッシュクロスの作り方、気化熱の実際、 洗浄剤の用い方	2	演習
9	8）全身清拭・寝衣交換の実際 8)-1　全身清拭（上肢・胸腹部）・寝衣交換の実際	2	演習
10	8）全身清拭・寝衣交換の実際 8)-2　全身清拭（下肢・背部・臀部）・寝衣交換の実際	2	演習
11	9）洗髪の意義と援助方法 10）部分浴の意義と援助方法	2	講義
12	11）洗髪の実際	2	演習
13	12）部分浴の実際	2	演習
14	13）陰部洗浄の意義と援助方法 14）入浴・シャワー浴の意義と援助方法	2	講義
15	15）陰部洗浄の実際	2	演習
16	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験（80点） 技術試験：体位変換・移動（20点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）
関連科目	人間工学、人体の構造演習、人体の構造と機能Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、生活アセスメント論、看護学概論、 看護共通基本技術、生命維持援助基礎技術

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	診療補助基礎技術Ⅰ	単位	1	時間	15	講師名	教員
開講時期	1年生　2学期						
科目の目的と概要	検査を受ける患者の看護を理解し、検査時に必要な看護技術について習得する。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1, DP3, DP5　の達成に寄与						
到達目標	1. 診察、検査時の看護師の役割が理解できる。 2. 生体検査の内容とその看護が理解できる。 3. 検体検査の内容とその看護が理解できる。 4. 静脈血採血の基本的技術が習得できる。 5. 侵襲的検査の内容とその看護が理解できる。						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 診察・検査・処置の介助技術 1)診察・検査時の看護師の役割 2)生体検査(エックス線撮影、超音波、CT、MRI、心電図)と看護	2	講義
2	2)生体検査(内視鏡、核医学)と看護	1	講義
3	3)侵襲的検査(穿刺検査)の目的と援助の方法 腰椎穿刺・骨髄穿刺・胸腔穿刺・腹腔穿刺 4)検体検査(血液、尿、便、喀痰)と看護	2	講義
4	5)静脈血採血の方法(注射器と注射針、真空採血管)・留意点 6)注射器具の種類と取り扱いについて	2	講義
5	注射器具の種類と取り扱いの実際 ・滅菌確認と開封 ・注射器と注射針の接続・把持・キャップを外す・廃棄	2	演習
6	静脈内採血ー直針を用いた真空採血管の実際	2	演習
7	静脈内採血ー翼状針を用いた真空採血管の実際	2	演習
8	技術試験	1	試験
9	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験(80点)　　技術試験:静脈採血法(20点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院) 医療安全ワークブック(医学書院)
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、病態生理学総論、病態生理学Ⅰ～Ⅳ、微生物学、看護学概論、看護共通基本技術、日常生活援助基礎技術、臨床看護総論

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	診療補助基礎技術Ⅱ	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	2年生　1学期						
科目の目的と概要	薬物療法を受ける患者に必要な看護技術について根拠を理解し、安全・安楽な技術を習得する。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1、DP2、DP3　の達成に寄与						
到達目標	1. 与薬の意義、看護師の責務、与薬する対象の心理が理解できる。 2. 経口与薬法、口腔内与薬法、直腸内・塗布・塗擦法・噴霧法の目的、作用機序、方法が理解できる。 3. 注射法、点滴静脈内注射の目的、方法が理解できる。 4. 注射法、点滴静脈内注射の基本的技術が習得できる。 5. 輸液ポンプ、シリンジポンプの取り扱いが理解できる。 6. 輸血法が理解できる。 7. 中心静脈栄養の管理について理解できる。						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 与薬の技術 1)与薬の意義、看護師の責務、与薬する対象の心理 2)経口与薬法、口腔内与薬法 ①目的・作用機序と適応　②服用時間、種類、方法の実際	2	講義
2	3)直腸内・塗布・塗擦法・噴霧法(吸入薬) ①目的・作用機序と適応　②方法の実際　③看護師の役割	2	講義
3	経口与薬、噴霧法(吸入薬)の実際	2	演習
4	4)注射法その1 (1)注射の目的と注射法の種類(注射部位・吸収速度と持続時間) (2)注射の確認の原則と確認方法 (3)皮下注射・皮内注射・筋肉内注射	2	講義
5	(4)皮下注射の実際(アンプルからの吸い上げ・皮下注射の実施)	2	演習
6	(5)筋肉注射の実際(アンプルからの吸い上げ・筋肉注射の実施)	2	演習
7	5)注射法その2 (1)静脈内注射　①目的と投与方法 (2)点滴静脈内注射　①目的と投与方法　②薬剤の溶解と混入の方法 ③注射法　④シュアプラグ(閉鎖式システム)と三方活栓のしくみ	2	講義
8	(3)点滴静脈内注射の実際① ①点滴の準備 バイアルの薬剤の溶解から輸液ボトルへの混入 輸液セットの接続の技術	2	演習
9	(4)点滴静脈内注射の実際② 輸液セットの接続の技術、輸液速度の調整、ワンショット	2	演習
10	(5)点滴静脈内注射の実際③ 上肢への点滴静脈内注射を安全に実施する技術、	2	演習
11	2. 輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器の仕組み・扱い方	2	講義
12	輸液ポンプ・シリンジポンプ・人工呼吸器の取り扱いの実際	2	演習
13	3. 輸血	2	講義
14	4. 中心静脈栄養管理について	2	講義
15	技術試験	1	試験
16	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験:80点 技術試験:点滴静脈内注射【ミキシング・プライミング・接続投与】(20点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅱ(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院) 医療安全ワークブック(医学書院)
関連科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、病態生理学総論、病態生理学Ⅰ～Ⅳ、生化学、薬理学、臨床栄養学、看護学概論、看護共通基本技術、生命維持援助基礎技術、臨床看護総論

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	看護過程演習	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生　2学期						
科目の目的と概要	紙上事例を通してアセスメントから計画立案、実施、評価までの看護過程の展開を学ぶ。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1, DP2, DP3, DP5, DP6　の達成に寄与						
到達目標	1. 看護過程を活用する意義が理解できる。 2. 看護過程の構成要素が理解できる。 3. 看護過程の基盤となる考えが理解できる。 4. 事例を用いて看護過程の展開の実際が理解できる。						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 看護過程とは 1)看護過程を活用する意義について 2)看護過程の構成要素 3)看護過程展開の基盤となる考え方(POS、クリティカルシンキング)	2	講義
2	4)倫理的配慮と価値判断 5)看護過程の各段階:アセスメント(情報収集と分析)	2	講義
3	5)看護過程の各段階:情報の整理・解釈・統合・分析 看護目標 看護診断・看護上の問題の明確化	2	講義
4	5)看護過程の各段階:看護計画・実施・評価 6)看護記録の目的・機能、守秘義務とセキュリティーの確保 看護記録の構成	2	講義
5	2. 事例を用いて看護過程の展開 事例提示(COPD)／情報収集・アセスメント(実習記録用紙No.1使用)	2	演習
6	情報収集・アセスメント グループワーク	2	演習
7	情報収集・アセスメント グループワーク・発表	2	演習
8	情報収集・アセスメント グループワーク・発表	2	演習
9	全体像の理解　看護目標　看護問題の抽出 グループワーク	2	演習
10	全体像の理解　看護目標　看護問題の抽出 グループワーク・発表	2	演習
11	看護問題の抽出・統合　看護目標の設定 グループワーク・発表	2	演習
12	看護計画の立案 個人ワーク・グループワーク	2	演習
13	看護計画の立案 グループワーク・発表	2	演習
14	看護の実施の記録の実際 記録の記載方法とアセスメント・評価(実習記録No.4使用) 終講試験・レポート課題の説明	2	演習
15	事例展開の振り返り・全体のまとめ	1	講義
16	終講試験(筆記)	1	試験

評価方法	筆記試験(50点)　看護過程展開レポート(50点)
テキスト	看護診断ハンドブック(医学書院) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針(照林社) 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ(医学書院)
関連科目	看護学概論、生活アセスメント論、看護共通基本技術、生命維持援助基礎技術、日常生活援助基礎技術、臨床看護総論、診療援助基礎技術Ⅰ(検査)、診療援助基礎技術Ⅱ(与薬)、対象理解演習、成人看護学概論、老年看護学概論

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	臨床看護総論	単位	1	時間	15	講師名	教員
開講時期	1年生　2学期						
科目の目的と概要	臨床看護の実施基盤となる経過・処置別と症状別看護の特徴を学ぶ。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP2、DP3　の達成に寄与						
到達目標	1. 回復期・リハビリテーション期にある患者の特徴と回復期・リハビリテーション期看護の特徴が理解できる 2. 急性期にある患者の特徴と急性期看護の特徴が理解できる 3. 慢性期にある患者の特徴と慢性期看護の特徴が理解できる 4. 終末期にある患者の特徴と終末期看護の特徴から臨終の看取り技術が理解できる 5. 主な症状と看護について臨床判断するための思考に必要な知識を整理・発表し、理解できる						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 臨床判断に必要な思考の基礎 2.疾病の経過と看護の特徴 健康障害のレベルとしての「経過」とは	2	講義
2	1)回復・リハビリテーション期とは 回復・リハビリ期の患者の特徴　　回復・リハビリ期の看護の特徴 2)急性期とは 急性期の患者の特徴、急性期の看護の特徴	2	講義
3	3)慢性期とは 慢性期の患者の特徴、慢性期の看護の特徴 4)終末期とは 終末期医療の特徴、終末期の患者のニーズ 全人的な援助、家族への援助、死後の処置	2	講義
4	3. 臨終の看取り技術 死後の処置	2	演習
5	4. 主な症状と看護について臨床判断の思考プロセスから考える 1)発熱 2)悪心・嘔吐/食欲不振/下痢・便秘 3)高血圧・低血圧/浮腫	2	演習
6	4. 主な症状と看護について臨床判断の思考プロセスから考える グループワーク	2	演習
7	4. 主な症状と看護について臨床判断の思考プロセスから考える 発表	2	演習
8	終講試験	1	試験

評価方法	レポート(50点)・終講試験(50点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅰ　臨床看護総論　(医学書院) 臨床看護学叢書2　経過別看護　(メヂカルフレンド社) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院) 看護過程に沿った対症看護　(学研)
関連科目	人体の構造と機能演習、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、病態生理学総論、病態生理学Ⅰ～Ⅳ、 病態アセスメント演習Ⅰ～Ⅱ、薬理学、基礎看護学、成人看護学　老年看護学

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	臨床看護基礎技術演習	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	2年生　1学期						
科目の目的と概要	基礎看護学で学んだ知識技術を統合し、看護過程を用いて対象に応じた援助が実施できる基礎的能力を養う。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP2, DP3, DP5, DP6　の達成に寄与						
到達目標	1. 事例患者の発達段階の特徴、障害されている臓器の解剖生理、病態生理、症状、治療、看護について理解できる。 2. 事例患者の看護過程の展開ができる。 3. 事例患者に必要な看護を考え実施できる。 4. 実施した看護について評価できる。						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 事例情報提示　事例に必要な学習について 1)発達段階の特徴と発達課題　2)解剖生理・病態生理の理解	2	講義 演習
2	事例情報の提示　事例に必要な学習について 3)症状の理解　4)検査・診断の理解　4)治療・看護の理解	2	講義 演習
3	情報分析(個人ワーク・グループワーク)　＊実習記録用紙No.1使用 (健康知覚－健康管理)	2	演習
4	情報分析(個人ワーク・グループワーク)　＊実習記録用紙No.1使用 (栄養-代謝・排泄・活動－運動)	2	演習
5	情報分析(個人ワーク・グループワーク)　＊実習記録用紙No.1使用 (活動－運動・睡眠－休息・認知－知覚)	2	演習
6	情報分析(個人ワーク・グループワーク)　＊実習記録用紙No.1使用 (自己知覚－自己概念・役割－関係・セクシュアリティー生殖・コーピング-ストレス耐性・価値-信念)	2	演習
7	情報の統合・問題の明確化(個人ワーク)　＊実習記録用紙No.2使用 全体像の描写(情報の関連性)　看護目標　看護問題の抽出	2	演習
8	情報の統合・問題の明確化(グループワーク・全体共有) 全体像の描写(情報の関連性)　看護目標　看護問題の抽出	2	演習
9	看護計画の立案(グループワーク)　＊実習記録用紙No.3使用	2	演習
10	看護計画に沿った看護実践(グループワーク)　＊実習記録用紙No.3使用 実践しながら看護計画の修正　看護技術練習	2	演習
11	看護計画に基づいた看護実践　(援助のロールプレイング) 事例患者への安全安楽な援助　＊実習記録用紙No.4使用(個人ワーク)	2	演習
12	看護計画に基づいた看護実践の評価と計画修正 ロールプレイングの場面の評価　＊実習記録No.3・4使用(個人ワーク)	2	演習
13	事例患者に行った看護のまとめ　(グループワーク) 看護についてスライド(動画)を作成する	2	演習
14	事例患者に行った看護のまとめ　(グループワーク) 看護についてスライド(動画)を作成する(続き)	2	演習
15	事例患者について行った看護の発表 全体のまとめ・看護サマリー(看護情報提供書　実習記録用紙No.5)	2	演習 講義

評価方法	看護展開レポート・看護のまとめスライド(100点)
テキスト	看護診断ハンドブック(医学書院) ゴードン博士の看護診断アセスメント指針(照林社) 系統看護学講座　専門分野Ⅰ　基礎看護技術Ⅰ(医学書院) 看護過程に沿った対象看護　病態生理と看護のポイント(学研)
関連科目	人体の構造と機能演習、人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ、病態生理学総論、病態生理学Ⅰ～Ⅳ、 病態アセスメント演習Ⅰ～Ⅱ、薬理学、基礎看護学、老年看護学

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	成人看護学概論	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	1年生　1学期						
科目の目的と概要	ライフサイクルにおける成人期の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解し、生活習慣病などの健康上の問題を予防するための保健・医療・福祉システムを理解する。そしてその人にとっての最適な健康を維持・促進するための看護を学ぶ。成人期の看護を考えるうえで基本的な看護の理論を学び、急性期・回復期・慢性期・終末期の経過にある人の看護を考える。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1, DP2, DP3, DP4　の達成に寄与						
到達目標	1. 成人の身体的・精神的・社会的特徴を理解し、健康問題を説明することができる 2. 成人の生活と健康を支える保健・医療・福祉システムについて説明することができる 3. 成人看護に必要な基本的アプローチを説明することができる 4. 成人看護に活かせる看護理論を述べることができる 5. 健康障害(急性期・回復期・慢性期・終末期)を持つ成人へのアプローチ方法を説明できる						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 1. 成人の特徴 1)ライフサイクルから見た成人期の区分 2)成人各期の特徴(青年期、壮年期・中年期、向老期) 発達段階・発達課題(エリクソン・ハヴィガースト・レビンソン) 身体的・精神的・社会的特徴	2	講義
2	2. 成人の生活と健康 1)成人の生活状況の特徴 2)健康格差、生活習慣病、成人各期の健康問題 3)成人の健康の状況(生と死の動向、職業性疾病・業務上疾病、有訴率、通院者率、受療率、自殺者数)	2	講義 演習
3	2. 3)の調べ学習したことをグループで発表・まとめ	3	講義・演習
4	3. 成人の保健医療福祉システム 1)保健にかかわる対策　健康増進・生活習慣病対策 2)医療にかかわる対策　医療法の改正・21世紀の医療提供対策 3)福祉にかかわる対策　障害者福祉・高齢者福祉 4)保健医療福祉システムの連携	2	講義
5	4. 成人への看護アプローチの基本 1)成人看護に活かせる看護理論(中範囲理論) 2)大人の学習(成人教育・アンドラゴジー) 3)集団(グループ)へのアプローチ	2	講義
6	4)家族支援 5)自己効力	2	講義
7	5. 成人の健康レベルに応じた看護 1)看護における経過 2)健康生活の急激な破綻から回復を促す看護 生命の危機的状態、急性期にある人の特徴	2	講義
8	急性期にある人の看護 ・危機理論(アギュララとメズイックのモデル・フィンクの危機モデル)	2	講義
9	3)慢性病との共存を支える看護 慢性病患者の経験する無力感	2	講義
10	慢性病との共存を支える看護 ・病みの軌跡	2	講義
11	4)障害がある人の生活とリハビリテーション 障害とは 障害がある人の障害の認識過程	2	講義
12	障害がある人とその生活を支援する看護 ・コーンの危機理論・エンパワメント	2	講義
13	5)人生の最期のときを支える看護 人間にとっての死、全人的苦痛、死とともに生きること 意思決定支援、アドバンスケアプランニング、死の準備教育	2	講義
14	人生最後のときを支える看護 ・死の受容過程	2	講義
15	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験(100点)
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論(医学書院)、看護のための人間発達学(医学書院) 臨床看護学叢書2　経過別看護(メヂカルフレンド社)、看護実践に活かす中範囲理論(メヂカルフレンド社)
関連科目	教育学、倫理学、人体の構造演習、病態生理学総論、健康支援論、保健医療論 看護学概論、成人看護学、老年看護学概論

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	老年看護学概論	単位	1	時間	15	講師名	教員
開講時期	1年生　2学期						
科目の目的と概要	高齢者擬似体験を行い、高齢者の身体機能の変化による日常生活の不自由さを体験し、高齢者の心理への気づきや環境調整の意義や必要性を理解する。 加齢による身体的・精神的・社会的変化を理解し、高齢社会の現状、高齢者のライフスタイルやニーズを知り、老年看護の目的・目標や役割を学ぶ。 高齢社会の保健・医療・福祉に対する理解を深め、高齢者施策や介護問題および権利擁護・倫理的課題を学ぶ。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1, DP2, DP4　の達成に寄与						
到達目標	1. 加齢による高齢者の身体的・精神的・社会的特徴とそれに伴う生活の変化が理解できる 2. 高齢者の生活を支援するための保健・医療・福祉システムについて理解できる 3. 高齢社会の現状をふまえ、老年看護の特徴と役割が理解できる 4. 高齢者の権利擁護・倫理的課題を考えることができる						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明（内容・方法・時期・他科目との関連・評価） 1. 高齢者の理解の基本となる概念 ・老年期の発達課題 ・加齢に伴う身体的側面・心理的側面・社会的側面の変化 ・喪失体験（演習）	2	講義 演習
2	2. 高齢者疑似体験演習 ・高齢者の送る日常生活を体験し、老年期の身体機能・心理機能の加齢による変化を理解する	2	演習
3	・高齢者疑似体験演習のまとめ（グループワーク）	2	演習
4	3. 高齢者の生活 ・超高齢社会の現況 ・高齢者のいる家族の変化 ・高齢者のくらしと社会参加 ・高齢者の機能と評価（CGA・ADL・IADL・ICF・日常生活自立度）	2	講義
5	4. 高齢社会における保健医療福祉の動向 ・保健医療福祉制度の変遷 ・地域包括ケアシステム ・介護保険制度のしくみ	2	講義
6	5. 老年看護の特徴 ・老年看護の役割 ・老年看護における理論・概念 （サクセスフルエイジング・ストレングスモデル）	2	講義
7	6. 老年看護の倫理 1）高齢者差別の防止 2）高齢者虐待防止 3）安全確保と身体拘束 4）アドボカシー 5）高齢者の意思決定 6）アドバンスケアプランニング	2	講義
8	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験（100点）
テキスト	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学（医学書院） 看護のための人間発達学（医学書院）
関連科目	倫理学、人体の構造演習、病態生理学総論、健康支援論、保健医療論 看護学概論、成人看護学概論、老年看護学

＊実務経験のある教員等による授業科目である。

科目名	看護実践演習	単位	1	時間	30	講師名	教員
開講時期	3年生　1学期　2学期						
科目の目的と概要	実務に即した実践ができるよう専門分野の知識・技術を統合して、看護実践できる。						
授業の位置づけとディプロマポリシーとの関連	DP1, DP2, DP3, DP4, DP5, DP6　の達成に寄与						
到達目標	1. 手術を受ける患者の看護の状態に応じた看護が実践できる。 2. 複数患者を受け持つときの優先順位の考え方が理解できる。 3. 状況に合わせた看護を判断し、必要な行動が理解できる。						

回数	教育内容	時間	方法
1	授業の進め方の説明(内容・方法・時期・他科目との関連・評価) 手術を受ける患者の看護①　個人・グループワーク 【事前課題】術後合併症	2	講義 演習
2	手術を受ける患者の看護② 術直後の患者の看護計画立案 術直後の患者の看護の実際　全身状態の観察:シミュレーション学習	2	演習
3	手術を受ける患者の看護③ 術直後の患者の看護の実際　デブリーフィング・リフレクション	2	講義 演習
4	手術を受ける患者の看護④ 【事前課題】点滴静脈注射のトラブルと対応 点滴静脈内注射のトラブル対応:シミュレーション学習	2	演習
5	手術を受ける患者の看護⑤ 点滴静脈内注射のトラブルと対応　デブリーフィング・リフレクション	2	講義 演習
6	手術を受ける患者の看護⑥ 術後患者への看護の実際　術後1日目　離床場面:シミュレーション学習	2	演習
7	手術を受ける患者の看護⑦ 術後患者への看護の実際　デブリーフィング・リフレクション	2	講義 演習
8	複数患者を受け持つ時の看護① 多重課題の特徴と対応 優先度の考え方 複数患者を受け持つ時の行動計画立案の考え方	2	講義
9	複数患者を受け持つ時の看護② 行動計画・看護計画の立案	2	講義 演習
10	複数患者を受け持つ時の看護③ 複数患者への優先順位を考慮した看護の実際③　シミュレーション学習 デブリーフィング・リフレクション	2	演習
11	夜間看護① 夜間患者の状態と看護・夜間の患者を守るための連携	2	講義 演習
12	夜間看護② 夜間に複数患者を受け持つ時の看護　シミュレーション学習 デブリーフィング・リフレクション	2	講義 演習
13	手術を受ける患者の看護⑧ 術後1日目　離床場面の看護の実際	2	演習
14	客観的臨床能力試験(OSCE)	1	試験
15	OSCE後まとめ	2	講義
16	終講試験	1	試験

評価方法	筆記試験(40点)　OSCE(50点)　シミュレーション学習の振り返りシート(10点)
テキスト	系統看護学講座　統合分野　看護管理(医学書院)
関連科目	保健医療福祉チーム演習、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、看護総合マネージメント、医療安全と看護倫理

＊実務経験のある教員等による授業科目である。